

各項目の進捗状況と課題、主な論点

＜項目 1・2・6 関係＞

(鈴木プラン (要旨) 抜粋)

1. 中長期の強化戦略プランの実効化を支援するシステムの確立

○ハイパフォーマンスセンター によるNFへのコンサルテーション等

- ・ JOC・JPC、JSCの協働チームが、NFにおけるシニア・ジュニア (次世代) の一貫指導など 「4年単位・2大会先」を見通した強化戦略プランの策定、更新を支援。
- ・ スポーツ庁等のターゲットスポーツの指定、各種事業の資金配分等に活用。

※「JISS・NTCの連携」及び「JOC・JPC、JSCの連携」のため本年4月にJSCに設置

【進捗状況】

- ① JSC・JOC・JPC で構成する協働チームを設置し、NF の強化戦略プラン (4年単位、8年単位) における PDCA サイクルの各段階でモニタリングを実施。毎年の協働コンサルテーションにおいて、強化戦略プランの進捗状況を確認するとともに、目標達成のための課題の明確化及びその課題解決のための情報提供、並びに実効性 (達成度) の検証などを実施。
- ② 協働チームで実施した強化戦略プランの検証結果を、全てのオリンピック・パラリンピック実施競技団体の競技力向上事業助成金の配分、及びメダル獲得の可能性の高い「重点支援競技 (東京：26 競技、北京：6 競技)」の選定に活用。

【主な論点】

- (ア)NF による強化戦略プランの策定・更新、及びこれに基づく強化活動が行われてきたが、その成果について、どのような観点から評価すべきか。東京大会の成績も踏まえた評価が必要と考えられるが、現時点で、これまでの取組の成果や改善点について、どのように考えるか。
- (イ)協働チームによるモニタリング、及び毎年の協働コンサルテーションについて、どのような成果があったと考えるか。また、これらの実施経験を踏まえ、手法やメリハリなど見直すべき点はあるか。
- さらに、ウィズコロナ・ポストコロナ時代に求められる支援やNFによる自己財源の確保などの観点を含め、強化戦略プランの実効化において、改善すべき点や新たに留意すべき点はあるか。
- (ウ)「重点支援競技」の選定方針や、その効果についてどのように考えるか (今後も継続していくべきか)。改善すべき点はあるか。また、資金配分に係る評価の観点として、社会情勢等も踏まえたNF独自の取組 (ICT活用など) に対する評価など、新たに留意すべき点はあるか。

(鈴木プラン (要旨) 抜粋)

6. 東京大会に向けた戦略的支援

- ① 「活躍基盤確立期」 (2017～2018年度)
「全競技パフォーマンスの最大化」の考えのもと NFの強化活動を積極的に支援。
- ② 「ラストスパート期」 (2019～2020年度)
「メダル獲得の最大化」の考えのもと、支援を柔軟かつ大胆に重点化。

【進捗状況】

- ① 2017～2018年度、競技力向上事業においては、2014年度と比較して約1.9倍となる90億超の予算額を確保し、各NFの強化活動を積極的に支援。加えて、ハイパフォーマンスサポート事業においても、スポーツ医・科学、情報等による専門的かつ高度な支援を積極的に実施。
- ② 2019～2020年度、競技力向上事業においては、100億円を超える予算額を確保した上で、メダル獲得の可能性の高い「重点支援競技 (東京：26競技、北京：6競技)」を選定し、支援額を加算。重点支援競技に対しては、加えて、ハイパフォーマンスサポート事業の支援対象競技として重点的な支援を実施。

【主な論点】

(ア)東京大会に向けた戦略的支援として、「活躍基盤確立期」「ラストスパート期」を設定し、ラストスパート期にはメダル獲得の可能性の高い競技に重点的に支援したことについてどのように考えるか。今後も引き続き、同様の期間設定・重点支援を行っていくべきか。改善すべき点はあるか。

(鈴木プラン (要旨) 抜粋)

2. ハイパフォーマンスセンターの機能強化

- ①戦略本部 (本年5月設置) 等の機能強化
 - a) スポーツ・インテリジェンスセンター (仮称)
諸外国のメダル戦略、選手強化方法、用具、急成長中の隠れた選手の情報等の収集分析。
 - b) スポーツ技術・開発センター (仮称)
メダル有望競技・アスリートの競技用具等の調整、機能向上、技術開発。
 - c) アスリート・データセンター (仮称)
本人及びNFの新たな強化方法の開発、スポーツ医・科学研究。
- ②ナショナルトレーニングセンターの拡充整備。
 - ・日本初となるパラ仕様の最先端屋内総合トレーニング施設の整備。オリパラ共用。
 - ・少なくとも東京大会の約1年前の開所を目指す。
 - ・国内外のトレーニング場所の確保支援を検討

【進捗状況】

- ① HPSC に、以下 a)~c)のグループが属する新たな組織（機能強化ユニット）を設置し、国際競技力強化を支える基盤を整備。
 - a) インテリジェンスグループ（国際的なネットワーキングから得られた情報を、統括団体やNF等に提供するインテリジェンス活動を実施）
 - b) 技術・開発グループ（オリパラ各大会に向けた競技用具等を開発）
 - c) アスリート・データグループ（アスリートデータシステムの整備・運用を実施）
- ② ユニバーサルデザインを採用したバリアフリー環境を実現する、NTC 拡充棟（NTC 屋内トレーニングセンター・イースト）を整備（令和元年6月末竣工）。これにより、NTC 中核拠点についてオリンピック競技とパラリンピック競技の更なる共同利用化を推進。
- ③ NTC 中核拠点のみでは対応が困難な冬季、海洋・水辺系、屋外系の競技等について、既存の施設を NTC 競技別強化拠点に指定し、各競技の競技力強化活動を支援（令和2年度3月現在、オリンピック競技 22 施設、パラリンピック競技 11 施設、オリパラ共同施設 6 施設、高地トレーニング 2 施設）。競技や地域の特性等により NTC 競技別強化拠点毎に抱えている競技力強化に関する様々な課題等の解決に向けた効果的手法の具体的な立案等を担う、専門人材「機能強化ディレクター」を配置（令和2年度から、5 拠点に配置）。

【主な論点】

- (ア)HPSC に設置された新たな組織の活動について、どのように評価するか。また、今後 HPSC に求められる（強化すべき）機能（例えば、コンディショニング関係やリモート支援など）について、どのように考えるか。
- (イ)これまで HPSC において開発された競技用具等の成果や課題をどのように評価できるか。これを踏まえ、国を含めた各関係機関等（JSC、統括団体、NF、民間等）の役割分担をどう考えるか。
- (ウ)HPSC の機能強化に関連し、スポーツ医・科学、情報等を活用したアスリートへの支援に関する知見の強化現場、地域、大学・研究機関、国民への還元について、今後の在り方をどのように考えるか。
- (エ)NTC 競技別強化拠点については、その成果や課題をどのように考えるか。現状は1競技1拠点を原則としているが、複数競技利用の是非や、海外を拠点とする選手が多い競技などの扱いについて、今後の在り方・方向性をどのように考えるか。